

# 大学生による商店街課題解決

## 周遊経路上への商店街の位置づけによる集客向上

( 富山県商工労働部商業まちづくり課 )

提案・指導教員 富山県立大学 工学部 准教授 星川圭介  
工学部 准教授 中村正樹  
教養教育 講師 濱貴子  
工学部 准教授 榊原一紀

( 参 加 学 生 )

濱トピックゼミ(26名)

川島 温人(2年)、川村 諒(2年)、山本 真也(2年)、石神 晋(2年)、栗田 善規(2年)、  
関 陽太(2年)、石川 雄大(2年)、荻原 将吾(2年)、山本 一輝(2年)、堤 葵(2年)、  
長村 遥(2年)、福島 晴貴(2年)、森田 雄大(2年)、上原 颯馬(2年)、神田 佑都(2年)、  
坪田 太樹(2年)、甲斐 雅也(2年)、惣名 慧介(2年)、長瀬 永遠(2年)、河合 亜美(2年)、  
根津 璃恵(2年)、矢野 陽奈子(2年)、梶原 大輔(2年)、木田 朔矢(2年)、上村 壮輝(2年)、  
橋村 信一郎(2年)

中村トピックゼミI(14名)

安藤 祐斗(2年)、井澤 郁美(2年)、大原 冬海(2年)、春日 隆利(2年)、京谷 美結(2年)、  
後藤 竜星(2年)、野村 恵矢(2年)、長谷川 映(2年)、坂東 裕太(2年)、北條 佑斗(2年)、  
松井 百加(2年)、丸山 智幸(2年)、山越 拓也(2年)、吉岡 壱星(2年)

中村・榊原・星川プレゼンテーション演習(11名)

大村 耕之介(3年)、西 隼哉(3年)、守田 尚生(3年)、岩島 大洋(3年)、  
小谷 工悟(3年)、寺田 果央(3年)、宮本 健杜(3年)、佐藤 祐一(3年)、  
梅澤 知希(3年)、鈴木 優斗(3年)、廣瀬 匠吾(3年)

### 1 課題解決策の要約

富山市西町商店街組合および入善町商工会を連携先として商店街の活性化に向けた学生主体の取り組みを行った。

西町商店街ではおわら風の盆などで県内外から多くの観光客を十分に取り込めていない。また従来からの顧客や来街者、地元住民に関しては、郊外型店舗の立地をはじめとする変化の中で、買い物行動の実態や商店街に対するニーズの変化を把握する必要がある。これら2つの課題に対して、観光客の周遊経路に商店街を取り込むためのスマホアプリのコンテンツ作成、および商店街の課題や商店街へのニーズの掘り起こしのためのアンケートの調査という2つの企画・調査研究を実施した。

入善町商工会から提示された課題は、同商工会が実施するまちづくりに関するアンケートに入善駅周辺の商店街に対する学生の視点を取り入れたいというもので、商店街および個別店舗を訪問した学生 11

名のうち3年生8名が3つの班に分かれ、それぞれ景観、活性化、暮らしやすさへの貢献という観点から商店街の課題と解決策の提示を行った。

## 2 調査研究(企画・実施を含む。)の目的

西町商店街における活動の目的は、富山県観光アプリ「Discover TOYAMA」を用いた観光客の商店街への呼び込み、および商店街の課題と商店街に対するニーズの分析の2点である。入善町商工会との取り組みについては、学生の目から見た入善駅周辺の商店街の課題と改善策を提示し、同商工会が実施するアンケートに学生の視点を盛り込むことを目的とした。

## 3 調査研究(企画・実施を含む。)の内容

西町商店街とは(1)スマホアプリコンテンツの作成および(2)アンケートの作成(3)アンケートの実施・分析、入善町商工会とは(4)学生視点での商店街の課題と解決策の提示を行った。

### (1) スマホアプリコンテンツの作成(西町・前期)

中村トピックゼミI(2年生)

富山県観光アプリ「Discover TOYAMA」には、「新湊きつときと市場アプリ」や「ロケ地・聖地ナビ」など観光地や観光テーマごとに見どころや周遊コースなどを紹介するアプリが用意されている。本事業においては西町商店街周辺に点在する有名菓子店の買い回りをテーマにしたアプリを「Discover TOYAMA」に掲載することを前提として、そのコンテンツの制作を行った。

2019年4月12日、富山県立大学でのゼミ初回で、学生14名に趣旨説明をし、事前調査をした上で、4月19日にアプリコンテンツの対象となる西町周辺の菓子店6店舗への現地聞き取り調査を実施した。調査結果を踏まえ、住民、観光客向けのアンケート案を作成し、5月17日に富山駅、グランドプラザ、総曲輪アーケードにて街頭アンケートを実施した。調査を分析し、アプリコンテンツ案のアイデア出しを行い、6月14日に富山市民プラザまちづくり事業部にて、協力菓子店を含む関係者への中間報告会を開催した。中間報告会での意見をもとに、コンテンツの最終案を作成し、7月5日に同事業部にて最終報告会を開催した。

### (2) 商店街アンケート質問項目の作成(西町・前期)

濱トピックゼミI(2年生)

西町商店街の見学(4月19日)、まちづくり、公共交通、地域活性化について資料の輪読(5月10日から6月7日)、西町商店街振興組合の石井隆信様による西町商店街振興組合の沿革、取り組んできた事業及び富山市中心部の商店街の課題と展望に関するお話(5月17日)によりまちづくりと西町に関する知識を得た上で前回アンケートを改訂する形でアンケートの作成を行った。

6月14日には平成24年におこなわれた前回アンケートの読み込みをおこなった。つづく6月21日には西町商店街を訪問し、富山市民プラザまちづくり事業部にて前回のアンケートを企画・実施された国土開発センター様に西町活性化アンケートについてヒアリングを行った。6月28日には西町活性化アンケートについて新たな項目や改良点についての考案をおこなった。7月5日には西町商店街を訪問し、富山市民プラザまちづくり事業部にて行われた最終報告会に参加し、アンケート項目案について提案を行った。

### (3) 商店街アンケートの実施・結果分析(西町・前期)

濱トピックゼミⅡ(2年生)

概要説明(10月4日), 西町商店街の見学(10月18日), 見学会の振り返りならびに街頭調査の事前準備(11月1日)を経て, 11月2日に西町商店街周辺と富山駅前にて西町商店街活性化アンケートの街頭調査を実施した。

その後, 街頭アンケートで得られたデータの入力作業(11月8日・15日), 基礎集計とクロス表分析(11月29日・12月6日)を行ったのち, 12月13日には西町商店街を訪問し, 富山市民プラザまちづくり事業部にて街頭調査の結果を報告した。12月20日の授業ならびに冬休みには戸別配布・郵送調査のデータ入力を行った。1月10日から16日にはアンケートデータを学生, 近隣住民, おでかけ・仕事客の3つのグループに分けて, 商店街の利用についてそれぞれのグループの特徴を分析するとともに, 各グループの商店街利用を増やすための提言を考案した。その結果をまとめ, 2月14日に富山市民プラザまちづくり事業部にて行われた期末報告会で発表した。

### (4) 学生視点での商店街の課題と解決策の提示(入善・前期):

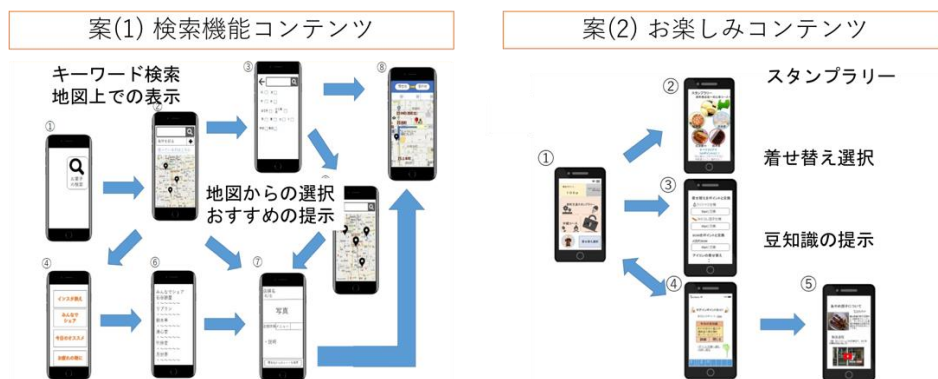
中村・榊原・星川プレゼンテーション演習(3年生)

4月18日に入善駅周辺の商店街の全体像を見て回りながら, 宝飾時計店, 家具店, 手芸店を個別に訪問し, 店主から経営の状況や取り組みについての話を伺った。その後5月16日には商店街の課題と解決策に関する意見交換会を実施した。

## 4 調査研究(企画・実施を含む。)の成果

### (1) アプリコンテンツの作成

2つのコンテンツ案を作成した(下図)。検索機能コンテンツ案では, 主に有名菓子や店舗の場所の知名度に関する街頭アンケートの分析結果を踏まえ, 地図機能を活用した観光客にわかりやすい検索機能の設計案を作成した。お楽しみコンテンツ案では, お土産を選ぶ際に重視する属性の分析結果を踏まえ, 観光客に菓子や店舗の歴史を知ってもらい, 楽しく富山の菓子について知ることができる機能の設計案を作成した。



### (2) アンケートの分析

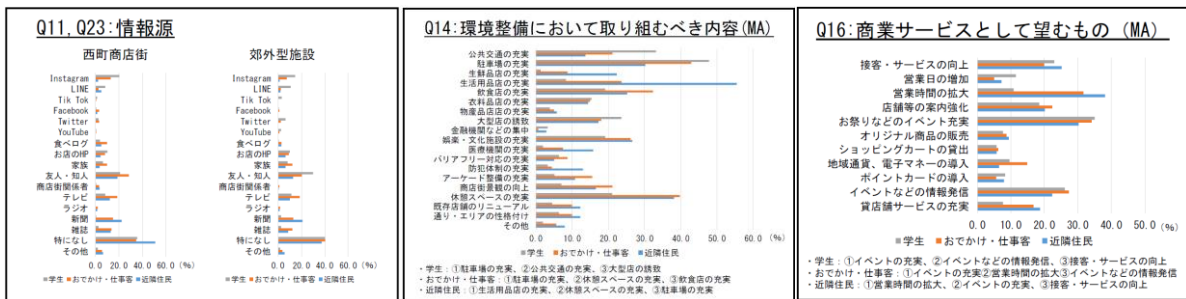
学生, お出かけ・仕事客, 近隣住民, というグループごとに西町商店街の利用について次のような特徴を抽出し, 商店街の利用頻度を高めるための提案をまとめた。

(学生) 西町商店街の利用について, ①公共交通を使う割合が高い, ②情報源として SNS の割合が高い, ③商店街よりも郊外型商業施設で「衣料品」の購入割合が高い, ⑤公共交通・駐車場の充実を望む割合

が高い、という特徴が抽出できた。

(おでかけ・仕事客) 西町商店街の利用について、①情報源として「特になし」が最も多く、次いで「友人・知人」「テレビ」が多かった。②環境整備について、駐車場の充実、休憩スペースの充実を望む割合が高かった、③不満について、ほかのグループに比べ駐車場に関する不満(不便・有料・料金が安い)、衣料品の不足の割合が高かった。

(近隣住民) 西町商店街の利用について、①週3回以上の利用が5割以上、②年配の方のデータが多い③他のグループに比べ食料品店目的での利用者が多い、④環境整備について、生活用品店の充実を半分以上の人が望んでおり、また、休憩スペースの充実を望む割合も高い、という特徴が抽出できた。



くわえて、イベント関連の質問項目に関する結果も報告した。①来街目的として「期間限定イベント」と答えた回答者の割合はどのグループも1割弱であり、あまり高くなかった。一方、②商業サービスとしての望むもののなかで、お祭りなどのイベントの充実を望む割合が全項目のなかで1番高く、グループによる差も小さかった。またイベントなどの情報発信の充実を望む割合も全項目のなかで3番目に高く、グループによる差も小さかった。

### (3) 学生から見た商店街の課題と解決策の提示

商店街周囲の景観、活性化、暮らしやすさへの貢献という3つの観点から入善駅周辺の商店街の課題とその解決策を提示した。商店街周囲の景観に関しては昔ながらのまちなみを残しながらの整備と今どきの街並みへの整備との2通りの提案を行った。また活性化については商店街で結婚式を行うことや、商店主を前面に出してのアピールなどのアイデアを提示した。暮らしやすさへの貢献については購入頻度の高い商品を置く店や飲食店を増やすことや地元の小中高との連携などを提案した。

## 5 調査研究(企画・実施を含む。)に基づく提言

### (1) アプリコンテンツを活用した集客に関する提言

最終報告会で、商店街関係者、菓子店関係者に対して、作成した2つのコンテンツ案を提示した。今

回のゼミで行った内容は、アプリ開発における上位工程である要求分析、外部設計に相当する。Discover TOYAMA 上でサービスを開始するためには、さらに、内部設計、実装、評価、運用の工程を経ることになる。そのためには、Discover TOYAMA へのコンテンツ登録にかかる契約形態を整理した上で、同サービスの開発チームを含めた関係者間の連携が必要となる。

#### (2) アンケート結果に基づく対象別提言

学生に対しては、①公共交通を利用した人にサービスをおこなってはどうか、②話題性のあるお店の広告・チラシを SNS で発信してはどうか、③衣料品店を充実させてはどうか、という3点である。おでかけ・仕事客に対しては、①口コミにつながりやすいInstagramやツイッターでの発信を強化していったらどうか、②無料駐車場のスペースを作ったらどうか、③衣料品店とくに GU や UNIQLO などの有名店の誘致をおこなったらどうか、という3点である。近隣住民に対しては、①生活用品の充実を多くの人が望んでおり、その結果から不足している業種にホームセンター、ドラッグストアなどがあつたため、そのようなお店を作れば近隣住民はもっと商店街を利用してくれるのではないかと、②食料品の種類や価格帯の幅を広げればより利用頻度が高まるのではないかと、という2点である。

くわえて、休憩スペースについても、買い物の合間にちょっと腰かけておしゃべりできるような場があると憩いととも賑わいも創出されるのではないかと考えられた。また、イベントについても充実を望む声は多く、イベントの開催頻度やイベント関連情報の発信を充実させれば来街者増につながるのではないかと考えられる。

#### (3) 学生から見た商店街の課題と解決策の提示

学生からの提案内容については前項4(3)に示した通りである。

### 6 課題解決策の自己評価

西町商店街活性化アンケートを実施し、とくに近隣住民の方たちに熱心に回答してもらったという印象を持った。近隣住民の方たちは他のグループに比べて自由回答欄への記述割合も顕著に高く、商店街活性化への期待が感じられた。一方で、学生は西町商店街へ行ったことがない割合も高く、このグループへ商店街の魅力を SNS など利用してアピールできるといように感じられた。ゼミに参加した複数の学生がこの授業がきっかけとなり個人的にも休日等に西町商店街を訪れており、知ることができれば出かけた街となることと感じられた。これらアンケートにて得られた声が西町商店街および中心市街地の活性化につながれば幸いである。